

# 2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 柔道整復師科 午前・午後	学年 2	開講区分 前期	担当教員 河田 晋一		
授業科目名  解剖学Ⅱ	必修/選択 必修	授業形態	講義	時間数(単位) 60(4)	授業回数 15

[授業の学習内容と心構え](実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)  
 医科大学、人体構造学分野で教鞭をとり、死体解剖資格を有する教員が、人体を構成する諸器官や組織の正常な形態・構成・機能などの基礎知識を教授する。

**[到達目標]**

解剖学を学ぶことで、柔道整復師となるのに必要な知識を習得する。  
 血管系や内臓器、神経系などの位置や内景を学び、その構造と機能を理解する。

**[使用教材、参考文献等]**

解剖学(医歯薬出版)

**[準備学習・時間外学習]**

事前に教科書を読み、わからない用語等は調べておくことが望ましい。各部の名称や構造を理解するために、授業後も繰り返し復習することが望ましい。

回	[授業概要]	到達目標(できるようになること)
1	上肢・胸部・腹部の動脈	上肢・胸部・腹部の循環器系の構成を理解する。 主要血管の走行を理解する。
2	骨盤部・下肢の動脈	骨盤部・下肢の循環器系の構成を理解する。 主要血管の走行を理解する。
3	大静脈・門脈・胎児循環	身体各部の静脈の構成を理解する。 門脈系、下大静脈のとその根の走行を理解する。
4	リンパ系・リンパ性器官	全身のリンパ管の構成と走行を理解する。
5	内臓学総論 消化管①	内臓系の種類を知る。 消化器臓器の解剖学的な位置を知る。
6	消化管②	消化管壁の構造と機能について理解する。
7	消化管③	消化器系の構成臓器の連続的なつながりを理解する。
8	消化管④	消化管について復習を行う。
9	肝臓・膵臓	肝臓・膵臓などの実質臓器の内景を知り、その機能を理解する。
10	腹膜	腹膜の構造について理解する。
11	呼吸器①	呼吸器系臓器の名称と機能を理解する。
12	呼吸器②	呼吸器系の各臓器の位置関係を知り、その連続的なつながりを理解する。
13	泌尿器①	泌尿器系の各臓器の名称と機能を理解する。
14	泌尿器②	泌尿器系の各臓器の位置関係を知り、その連続的なつながりを理解する。
15	期末試験	テストにより効果測定を行い、習熟度を把握し、理解度を深める。

**[評価について]**

評価は筆記試験で行う。  
 筆記試験は期末テスト100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。

**[特記事項]**

毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。

# 2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	柔道整復師科 午前・午後	学年	2	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名	生物学	必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15

〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)  
 生体恒常性の維持に関わる自律機能を理解する。恒常性の極度障害は死を招き、軽度の障害は病気となる。生物学の学習によって医学を理解し、専門医療を提供できる基本知識を習得する。

〔到達目標〕  
 体温、内分泌、排泄、生殖機能の恒常性と自律機能を理解する。これらの機能の神経性・代謝性機能統合による常態について理解し、その知識を習得する。

〔使用教材、参考文献等〕  
 生理学(南江堂)

〔準備学習・時間外学習〕

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	尿の生成と排泄	尿の性状を説明できる
2	尿の生成と排泄	腎臓の構造と脈管系を説明できる
3	尿の生成と排泄	腎臓の機能単位を説明できる
4	尿の生成と排泄	腎臓の構造と機能を説明できる
5	尿の生成と排泄	尿の生成を説明できる
6	尿の生成と排泄	腎機能評価を説明できる
7	内分泌	内分泌腺とホルモンについて説明できる
8	確認テスト	確認テストによる総括評価
9	内分泌	内分泌腺とホルモンについて説明できる
10	内分泌	内分泌腺とホルモンについて説明できる
11	内分泌	内分泌腺とホルモンについて説明できる
12	生殖	男性生殖器について説明できる
13	生殖	女性生殖器、性周期について理解し説明できる
14	生殖	性周期の内分泌調節を説明できる
15	期末テスト 解説	期末テストによる総括評価

〔評価について〕  
 中間試験(50点)と期末試験(50点)の合計100点満点で評価する

〔特記事項〕  
 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。

# 2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	柔道整復師科 午前・午後	学年	2	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名	臨床柔道整復学 I	必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15

〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

柔道整復師の資格を持ち、接骨院の臨床現場で、怪我や負傷した選手の施術・治療・予防指導に尽力してきた柔道整復師専科教員が、柔道整復術の骨折・脱臼・軟部組織損傷の知識および治療法を、人体構造の基礎である筋骨格系をベースに授業を行なう。作図と3D映像を交え、立体的に把握できるような空間認識能力を培い、実際の人体内部を理解できる授業とする。臨床での経験を活かし、実際の治療法に関する内容まで到達することを目標とする。

〔到達目標〕

手関節・手指部の脱臼、頭部・体幹の骨折と軟損の基本的知識を説明できるようになる。

〔使用教材、参考文献等〕

柔道整復学 理論編 改訂第7版 南江堂

〔準備学習・時間外学習〕

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	手関節・手指部の脱臼(1)	遠位橈尺関節脱臼および橈骨手根関節脱臼の発生機序、症状、治療法、後遺症を理解し、記憶する。
2	手関節・手指部の脱臼(2)	月状骨脱臼および月状骨周囲脱臼の発生機序、症状、治療法、後遺症を理解し、記憶する。
3	手関節・手指部の脱臼(3)	CM関節脱臼および、第1MP関節脱臼の発生機序、症状、治療法、後遺症を理解し、記憶する。
4	手関節・手指部の脱臼(4)	第2～5MP関節脱臼の発生機序、症状、治療法、後遺症を理解し、記憶する。
5	手関節・手指部の脱臼(5)	PIP関節脱臼およびDIP関節脱臼の発生機序、症状、治療法、後遺症を理解し、記憶する。
6	頭部・顔面骨折(1)	頭部骨折の発生機序、症状、治療法、後遺症を理解し、記憶する。
7	頭部・顔面骨折(2)	顔面骨折の発生機序、症状、治療法、後遺症を理解し、記憶する。
8	中間試験	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。
9	脊椎骨折(1)	環軸椎系骨折、椎体系骨折の発生機序、症状、治療法、後遺症を理解し、記憶する。
10	脊椎骨折(2)	脊椎水平骨折、突起系骨折の発生機序、症状、治療法、後遺症を理解し、記憶する。
11	頭部・体幹軟損(1)	寝違え、むち打ち損傷の発生機序、症状、治療法、後遺症を理解し、記憶する。
12	頭部・体幹軟損(2)	胸郭出口症候群の発生機序、症状、治療法、後遺症を理解し、記憶する。
13	頭部・体幹軟損(3)	外傷性腕神経叢麻痺の発生機序、症状、治療法、後遺症を理解し、記憶する。
14	頭部・体幹軟損(4)	神経絞扼障害の発生機序、症状、治療法、後遺症を理解し、記憶する。
15	期末試験	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。

〔評価について〕

前期50点満点+後期50点満点の100点満点とし、60点以上を合格とする。

〔特記事項〕

私語や居眠りなど、学業の妨げとなる行為は指導する。

## 2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 柔道整復師科 午前・午後		学年	2	開講区分	前期	担当教員			菊池知美・中村亮
授業科目名		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
<p>〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</p> <p>接骨院にて怪我や負傷した選手の施術・治療・予防指導に尽力してきた柔道整復師専科教員が、柔道整復師として必要な軟部組織損傷についての知識を教授する。</p> <p>解剖学的な構造を理解したうえで発生機序を理解する。ただ単に症状や治療法を暗記するのではなく、なぜそのような症状がでるのか、なぜそのように治療するのかを解剖学や運動学といった学問を基に論理的に考えさせ、臨床の現場でも対応できるような知識の習得を目指した授業とする。</p>									
<p>〔到達目標〕</p> <p>肘関節の骨折・脱臼・軟部組織損傷についての基本的知識を説明できるようになる。</p>									
<p>〔使用教材、参考文献等〕</p> <p>柔道整復学 理論編 改訂第7版 南江堂</p>									
回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)							
1	オリエンテーション	肘周辺の疾患について学習目標、学習方法、試験内容等を理解する。							
2	肘関節の機能解剖	肘関節の機能解剖について理解する。							
3	上腕骨顆上骨折1	顆上骨折の発生機序、症状について理解する。							
4	上腕骨顆上骨折2	顆上骨折の後遺症と予後について理解する。							
5	上腕骨外顆骨折	上腕骨外顆骨折について理解する。							
6	上腕骨内側上顆骨折	上腕骨内側上顆骨折について理解する。							
7	橈骨近位部骨折	橈骨近位部骨折について理解する。							
8	肘頭骨折	肘頭骨折について理解する。							
9	肘関節脱臼1	両骨脱臼について理解する。							
10	肘関節脱臼2	橈骨単独脱臼・肘内障について理解する。							
11	肘関節部の軟部組織損傷1	靭帯損傷について理解する。							
12	肘関節部の軟部組織損傷2	野球肘について理解する。							
13	肘関節部の軟部組織損傷3	テニス肘、その他の疾患について理解する。							
14	復習	復習を行う。							
15	期末テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得度を把握し、理解度を深める。							
<p>〔評価について〕</p> <p>評価は筆記試験で行う。 試験は単位認定試験(100点)で評価する。評価は学則規定に準ずる。</p>					<p>〔特記事項〕</p> <p>毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。</p>				

# 2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	柔道整復師科 午前・午後	学年	2	開講区分	前期	担当教員 菊池知美・中村亮			
授業科目名	臨床柔道整復学Ⅲ	必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15

〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

臨床経験を持つ柔道整復師専科教員が、柔道整復師として必要な骨盤から下肢の骨折についての知識を教授する。解剖学的な構造を理解したうえで発生機序を理解する。ただ単に症状や治療法を暗記するのではなく、なぜそのような症状がでるのか、なぜそのように治療するのかを解剖学や運動学といった学問を基に論理的に考えさせ、臨床の現場でも対応できるような知識の習得を目指した授業とする。

〔到達目標〕

柔道整復学の各論として下肢の骨折・脱臼を学び整復・固定を理解する。

〔使用教材、参考文献等〕

柔道整復学・理論編  
柔道整復学・実技編

〔準備学習・時間外学習〕

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	骨盤骨単独骨折	骨盤の構造を理解し、骨盤に起こる骨損傷についての症状や治療法を理解する。
2	骨盤輪骨折、骨盤骨折復習	骨盤の構造を理解し、骨盤に起こる骨損傷についての症状や治療法を理解する。
3	大腿骨近位端部骨折 (骨頭部・頸部骨折)	大腿部の構造を理解し、大腿骨近位部に起こる骨損傷についての症状や治療法を理解する。
4	大腿骨近位端部骨折、骨盤・大腿骨骨折復習 (転子部骨折・転子下骨折)	大腿部の構造を理解し、大腿骨近位部に起こる骨損傷についての症状や治療法を理解する。
5	大腿骨骨幹部骨折	大腿部の構造を理解し、大腿骨骨幹部に起こる骨損傷についての症状や治療法を理解する。
6	大腿骨遠位端部骨折	大腿部の構造を理解し、大腿骨遠位部に起こる骨損傷についての症状や治療法を理解する。
7	下腿骨近位端部骨折	下腿部の構造を理解し、下腿骨近位部に起こる骨損傷についての症状や治療法を理解する。
8	膝蓋骨骨折	膝蓋骨の構造を理解し、膝蓋骨に起こる骨損傷についての症状や治療法を理解する。
9	下腿骨骨幹部骨折	下腿部の構造を理解し、下腿骨骨幹部に起こる骨損傷についての症状や治療法を理解する。
10	下腿骨遠位端部骨折および足関節の脱臼骨折	下腿部の構造を理解し、下腿遠位部に起こる骨損傷についての症状や治療法を理解する。
11	大腿骨骨幹部～下腿骨遠位部骨折総復習	大腿骨骨幹部～下腿骨遠位部までの骨折を復習し、理解を深める。
12	足根骨骨折	足根部の構造を理解し、足根部に起こる骨損傷についての症状や治療法を理解する。
13	中足骨骨折	中足部の構造を理解し、中足部に起こる骨損傷についての症状や治療法を理解する。
14	前期総復習	下肢の骨折について総復習を行い、理解を深める。
15	期末テスト	テストにより効果測定を行い、習得度を把握し、理解度を深める。

〔評価について〕

評価は筆記試験で行う。  
筆記試験は期末テスト(100点)で評価する。  
評価は学則規定に準ずる。

〔特記事項〕

毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。

# 2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	柔道整復師科 午前・午後		学年	2	開講区分	前期	担当教員			清水 幹弥	
授業科目名	運動学		必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15	
<p>[授業の学習内容と心構え](実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</p> <p>前期は、身体運動を観察する方法(土台は解剖学・生理学・力学)を理解してもらいます。後期は、具体的な運動(立つ、歩く、走る)について、今までに観察された知見を理解してもらいます。 この学問は多くの土台の上に立っていますので、小学校以来に学んだことはもちろん、現在学んでいる他の科目(特に解剖学・生理学)と結びつけながら取り組んでください。</p>											
<p>[到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身体運動を分析する基本的観点及び専門用語を理解する。</li> <li>・授業内容に該当する国家試験問題を理解する。</li> </ul>											
<p>[使用教材、参考文献等]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書は運動学(医歯薬出版改訂第3版第10刷)</li> <li>・学習には次の文具を用いることがある 色ペン、三角定規、コンパス、分度器、√付き電卓、等</li> </ul>						<p>[準備学習・時間外学習]</p> <p>勉強の方法は、『予習→受講→復習』以外にありません。 授業前に教科書を読み、授業後にもう一度読むこと</p>					
回	[授業概要]					到達目標(できるようになること)					
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シラバスの確認</li> <li>・教科書の特徴、国試における出題傾向を知る</li> </ul>					教科書の目次から、この教書の特徴を推察する。					
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動学の目的</li> <li>・運動の表し方</li> <li>・身体運動に関する力(1/2)</li> </ul>					運動学の目的と運動の表し方、並びに力学の基礎を理解する。					
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身体運動に関する力(2/2)、単一機械構造</li> </ul>					ベクトル、てこ、力のモーメント、運動の法則、質量、重量、力、骨の構造・機能を学びます。					
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動の法則、骨・関節の構造と機能</li> <li>・筋の構造と機能</li> </ul>					骨の構造・機能・及び筋収縮、運動単位の機能を学びます。					
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・神経の構造と機能、運動感覚</li> </ul>					神経細胞、中枢神経、筋紡錘を学びます。					
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・反射と随意運動</li> </ul>					反射の種類、随意運動のメカニズムを学びます。					
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・復習</li> <li>※問題形式の資料を用いる</li> </ul>					第2回から第6回までの内容を復習します。					
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・確認テスト(70分)</li> <li>※試験当日に同一試験を行うので、解説は後日行う。</li> </ul>					第2回から第6回までの内容を試験します。					
9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・肩甲骨の運動</li> <li>・肩関節の筋(起始・停止・作用)</li> </ul>					肩甲骨を動かす主な筋について、塗り絵を描けるようにします。					
10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・肘関節と手関節の筋(起始・停止・作用)</li> </ul>					肘関節と手関節を動かす主な筋について、塗り絵を描けるようにします。					
11	<ul style="list-style-type: none"> <li>・股関節の筋(起始・停止・作用)</li> </ul>					股関節を動かす主な筋について、塗り絵を描けるようにします。					
12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・膝関節と足関節の筋(起始・停止・作用)</li> </ul>					膝関節と足関節を動かす主な筋について、塗り絵を描けるようにします。					
13	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6大関節の復習</li> </ul>					6大関節の塗り絵を描けるようにします。					
14	<ul style="list-style-type: none"> <li>・復習</li> </ul>					第2回から第6回までの主な内容と、第9回から第13回までの詳細を復習します。					
15	<ul style="list-style-type: none"> <li>・期末試験(70分)</li> <li>※試験当日に同一試験を行うので、解説は後日行う。</li> </ul>					第2回から第6回までの主な内容と第9回から第13回までの詳細を試験します。					
<p>[評価について]</p> <p>試験は筆記試験で行います 評価は、確認試験(40%)と期末試験(60%)の合計100%で行います。</p>						<p>[特記事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業では、学問として大切である箇所と、国家試験に高頻出である箇所を指摘します。</li> <li>・過去の国家試験の問題は、全て教科書から出題されています。したがって教科書に沿って学ぶことが大切です。</li> </ul>					

## 2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		柔道整復師科 午前・午後		学年	2	開講区分	前期	担当教員			村松 淳	
授業科目名				必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15	
病理学概論				<p>[授業の学習内容と心構え](実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</p> <p>歯科医師の資格を有し、学会での論文発表の経験があり、長年にわたり大学や医療系専門学校での教育に貢献してきた教員が、細胞傷害、循環障害、進行性病変、炎症、免疫異常、腫瘍、先天性異常、病因について教授する。</p>								
[到達目標]				<p>柔道整復師の業務を行う上で必要な病理学の知識を習得する。</p> <p>疾病の原因、経過などについて細胞、組織、器官などの形態の変化を理解する学問である事を理解する。</p>								
[使用教材、参考文献等]				[準備学習・時間外学習]								
病理学概論				<p>専門用語が多い科目のため予め教科書を読み予習しておくこと。</p> <p>また、授業後は復習をし用語の意味を理解することが望ましい。</p>								
回	[授業概要]			到達目標(できるようになること)								
1	病理学の意義			病理学の意義、方法の概要を説明できる。								
2	疾病の一般			疾病の分類を説明できる。疾病の経過、予後、転帰を理解できる。								
3	細胞障害(退行性病変、代謝障害)			退行性病変(代謝障害)を分類できる。代謝障害と疾病との関係について説明できる。								
4	細胞障害(壊死)			壊死、死について理解できる。								
5	循環障害(血液の循環障害)			充血、うっ血、虚血、出血、血栓、梗塞についての原因や分類、病態、転帰が理解できる。								
6	循環障害(リンパ液の循環障害)			浮腫や脱水症、高血圧症について理解できる。								
7	進行性病変(病的増殖)			肥大、過形成、再生、化生について説明ができる。								
8	中間テスト			テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。								
9	細胞・組織の適応(移植)			移植の定義、分類を説明できる。								
10	炎症(炎症の一般)			炎症の原因や形態学的変化を理解できる。								
11	炎症(炎症の分類)			炎症の分類を説明できる。								
12	免疫異常(免疫の仕組み)			免疫の仕組みについて理解する。								
13	免疫異常(免疫不全)			原発性免疫不全と後天性免疫不全について理解する。								
14	免疫異常(自己免疫疾患)			自己免疫疾患の代表的疾患の病因を理解する。								
15	期末テスト			テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。								
[評価について]				[特記事項]								
<p>評価は筆記試験で行う。</p> <p>筆記試験は中間テスト(50点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。</p>				<p>毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。</p> <p>必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。</p>								

# 2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	柔道整復師科 午前・午後	学年	2	開講区分	前期	担当教員			佐藤 卓弥
授業科目名	整形外科学	必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
<p>[授業の学習内容と心構え](実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)                      専門分野の教員要件を有し、長年にわたり医療系専門学校の教育に貢献してきた教員が、臨床において高頻度に遭遇しうる整形外科疾患の概要を教授する。単に臨床上の基礎知識にとどまらず、幅広く疾患を俯瞰でき得るよう、医学知識を習得する。</p>									
<p>[到達目標]                      整形外科の基礎となる解剖・生理・運動学的知識を確認し、整形外科で用いられる診察・治療手段、各整形外科疾患の概要、疫学、症状、診断、治療について理解する。</p>									
[使用教材、参考文献等] 整形外科学					[準備学習・時間外学習] 専門用語が多い科目のため予め教科書を読み予習しておくこと。また、授業後は復習をし用語の意味を理解することが望ましい。				
回	[授業概要]				到達目標(できるようになること)				
1	整形外科の意義と内容				整形外科の意義と内容を理解できる				
2	運動器の基礎知識(骨の基礎知識)				既に学習した運動器について図示、説明できる				
3	運動器の基礎知識(関節の基礎知識)				既に学習した運動器について図示、説明できる				
4	運動器の基礎知識(筋・靭帯・腱の基礎知識)				既に学習した運動器について図示、説明できる				
5	整形外科診察法				整形外科特有の検査法、画像診断の概要を知り、簡単な検査を実践できる。				
6	整形外科検査法				整形外科特有の検査法、画像診断の概要を知り、簡単な検査を実践できる。				
7	整形外科的治療法				整形外科特有の検査法、画像診断の概要を知り、簡単な検査を実践できる。				
8	復習				復習を行い、知識を定着させる。				
9	骨・関節損傷総論				骨折、捻挫、脱臼について説明できる				
10	スポーツ整形外科総論				スポーツ障害について理解し、主な疾患を説明できる				
11	リハビリテーション総論				変形(拘縮)、術後、上肢、スポーツのリハビリテーションについて理解し説明ができる				
12	疾患別各論(感染性疾患)				整形外科領域の感染性疾患について主な疾患が挙げられ、その主な症状について説明ができる				
13	疾患別各論(骨および軟部腫瘍)				整形外科領域の骨・軟部腫瘍領域について主な疾患を挙げられ、その主な症状について説明できる				
14	疾患別各論(非感染性軟部・骨関節疾患)				整形外科領域の非感染性疾患について主な疾患が挙げられ、その主な症状について説明ができる				
15	期末テスト解説				テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。				
[評価について] 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は期末テスト100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。					[特記事項] 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。 必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。				

# 2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	柔道整復師科 午前・午後	学年	2	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名	一般臨床医学	必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
						佐々木 皓平			

〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)  
 柔道整復師にとって必要な内科を中心とした診察法や疾患について、病態生理から理解するよう授業を行う。

〔到達目標〕  
 総論、各論共に理解、定着を目標とする。

〔使用教材、参考文献等〕  
 一般臨床医学(改訂第3版)を基にした配布資料

〔準備学習・時間外学習〕  
 授業後の復習が望ましい。

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	オリエンテーション	本科目の目標について理解する。
2	診察概論・問診	診察の意義と問診のルールを説明できる。
3	視診(1) 体格・体型、体位・姿勢	体格・体型、体位・姿勢で特有の疾患を説明できる。
4	視診(2) 栄養状態、精神状態	栄養状態の指標、精神状態の単語の定義を説明できる。
5	視診(3) 異常運動	各異常運動の名称と特徴を説明できる。
6	視診(4) 歩行	歩行・跛行について疾患と結びつけて説明できる。
7	視診(6) 皮膚の状態、頭部	皮膚と頭部の異常と疾患を結びつけて説明できる。
8	中間テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。
9	視診(7) 顔面部	顔面と頸部の異常と疾患を結びつけて説明できる。
10	視診(8) 頸部、胸部、腹部	頸部、胸部、腹部に異常をきたす疾患を説明できる。
11	視診(9) 背部、四肢	背部、四肢に異常をきたす疾患を説明できる。
12	打診	打診の基本と異常をきたす疾患を説明できる。
13	聴診	聴診の基本と異常をきたす疾患を説明できる。
14	触診	触診の基本と異常をきたす疾患を説明できる。
15	期末テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。

〔評価について〕  
 試験は中間テスト(40点)と期末テスト(60点)の合計100点で評価する。また、**授業参加態度も考慮する**。評価は学則規定に準ずる。

〔特記事項〕  
 毎授業において重要事項については穴埋めを行うこと。

## 2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	柔道整復師科 午前・午後	学年	2	開講区分	前期	担当教員			高柳 和貴
授業科目名	外科学概論	必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30 (2)	授業回数	15
<p>[授業の学習内容と心構え](実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</p> <p>鍼灸師として臨床で現場で地域住民の健康増進に貢献している教員が、臨床現場において理解しておくべき外科学的疾患を中心に学習を行う。外科的な診断が必要となる患者の場合、外科的知識を学ぶことで医師へ必要な情報を伝えることができる。最初に重要事項についての講義を行い、国家試験レベルの問題を通して、理解の定着をはかる。座学での授業であるため、しっかり復習して各疾患のキーワードを確認し、授業に臨んでほしい。</p>									
<p>[到達目標]</p> <p>外科学に関連する基本的な事項について学び、内容を説明できる。外傷などを含めた、頻度の高い疾患を理解できる。自ら調べ深い学びを学習することができる。学習した内容により施術の上、注意が求められる医療過誤を防止する知識の土台を形成することを目標としている。ただし、授業内容、学生の理解に応じて変更する可能性があります。</p>									
[使用教材、参考文献等]					[準備学習・時間外学習]				
外科学概論					専門用語が多い科目のため予め教科書を読み予習しておくこと。また、授業後は復習をし用語の意味を理解することが望ましい。				
回	[授業概要]				到達目標(できるようになること)				
1	オリエンテーション 損傷				損傷について理解することができる。				
2	損傷(2)				創傷(分類、治癒過程、処置、熱傷)について理解することができる。				
3	熱傷				熱傷の原因・診断・治療・合併症を説明できる。				
4	炎症と外科感染症				炎症の定義、分類、感染症発症のメカニズム				
5	腫瘍				成因、分類、発育形式、症状				
6	腫瘍				輸液の定義、目的、適応について理解する。輸液の注意、副作用、合併症について知識を得る。				
7	中間のまとめ				1～6回までの中間まとめ				
8	ショック				4つの分類とその原因、症状、治療				
9	輸血・輸液1				輸血の基礎知識、適応と実際				
10	輸血・輸液2				一般輸液と高カロリー輸液				
11	手術				切開法、結紮法、縫合法、穿刺術				
12	麻酔1				全身麻酔法				
13	麻酔2				局所麻酔法				
14	移植と免疫				移植の用語、拒絶反応、移植の現状				
15	期末テスト				1から14回までの期末テスト				
[評価について]					[特記事項]				
評価は筆記試験で行う。筆記試験は中間テスト(40点)と期末テスト(60点)として合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。					毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。				

## 2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	柔道整復師科 午前・午後	学年	2	開講区分	前期	担当教員			高柳 和貴
授業科目名	リハビリテーション医学	必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30 (2)	授業回数	15
<p>〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</p> <p>長年各学校で教員を務めた経験がある、鍼灸師と盲学校特殊教科教諭1種免許を有した教員が講義形式で授業を行う。リハビリテーション医学の総論部分及び、リハビリテーションの基礎医学、評価と診断を教授する。</p>									
<p>〔到達目標〕</p> <p>リハビリテーション医学の総論部分を学ぶ。リハビリテーションの基礎医学、評価と診断を理解する。リハビリテーション医学の各種療法について学習し、理解する。</p>									
〔使用教材、参考文献等〕					〔準備学習・時間外学習〕				
リハビリテーション医学(改訂第4版)					専門用語が多い科目のため予め教科書を読み予習しておくこと。また、授業後は復習をし用語の意味を理解することが望ましい。				
回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)							
1	リハビリテーションの概念と歴史	リハビリテーションの定義と概念及び主要目的を示せる。リハビリテーションの歴史を示せる。							
2	リハビリテーション医学	医学的リハビリテーションとリハビリテーション医学の関係を説明できる。							
3	運動学と機能解剖(関節の運動、上肢の運動)	関節運動・筋の作用の概要が説明できる。上肢にある関節の運動と機能解剖が説明できる。							
4	下肢・脊柱の運動と機能解剖	脊柱の運動と機能解剖が説明できる。下肢にある関節の運動と機能解剖が説明できる。							
5	障害学	関節の変形を原因別に分類できる。関節拘縮の発生機序について概要が説明できる。							
6	治療学	運動障害をきたす原因部位を分類、関連器官と評価手段の種類を挙げ概略を説明できる。治療アプローチの原則を障害レベル別に説明できる。							
7	リハビリテーション医学の評価と診断(患者のとらえ方)	障害モデルにおける評価の意義を説明できる。評価の目的を説明しゴール設定で評価の持つ意義を説明できる。							
8	復習	復習を行い、知識を定着させる。							
9	リハビリテーション医学の評価と診断(高次脳機能の局在)	中枢性運動障害の評価法の概略が説明できる。							
10	リハビリテーション医学の評価と診断(画像診断)	電気生理学的検査、画像診断の概略が説明できる。							
11	リハビリテーションの治療(理学療法)	理学療法の定義・適応・実施過程の概略が説明できる。運動療法の種類・期待される効果について説明できる。							
12	リハビリテーションの治療(作業療法)	作業療法の概要と種類を示し説明できる。装具の分類・使用目的・適応について説明できる。							
13	リハビリテーションの治療(補装具)	装具の分類・使用目的適応について説明できる。義肢・歩行補助具の分類、使用目的について説明ができる。							
14	リハビリテーションの治療(補装具)	装具の分類・使用目的適応について説明できる。義肢・歩行補助具の分類、使用目的について説明ができる。							
15	期末テスト	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。							
〔評価について〕					〔特記事項〕				
評価は筆記試験で行う。筆記試験は期末テスト100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。					毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。				

## 2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	柔道整復師科 午前・午後	学年	2	開講区分	前期	担当教員					
授業科目名	柔道整復実技Ⅲ	必修/選択	必修	授業形態	実技	菊池知美・中村亮		時間数(単位)	30 (2)	授業回数	15
<p>〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</p> <p>臨床経験を持つ柔道整復師専科教員が、各代表的な骨折・脱臼・軟部組織損傷の基礎知識と整復・固定の技術を指導する。骨折・脱臼の整復・固定は柔道整復師として絶対的に必要な技術であり、他業種に負けない独自の技術である。そのため、自主練習に励み、1年間のうちにその基礎を培って欲しい。</p> <p>〔到達目標〕</p> <p>柔道整復師として必要な上肢の骨折・脱臼に対する整復法と固定法を習得することを目標とする。 3年次に行われる認定実技審査の内容を細かく学び、技術の習得をする。</p> <p>〔使用教材、参考文献等〕 柔道整復学 実技編 柔道整復学 理論編 包帯固定学</p> <p>〔準備学習・時間外学習〕</p>											
回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)									
1	授業オリエンテーション 認定実技審査について	・この授業の到達到達目標を確認する。 ・認定実技審査の概要について理解する。									
2	大腿四頭筋打撲・ハムストリングス損傷・下腿三頭筋損傷の診察	全身および患部の診察を適切に進めることができる									
3	肩腱板損傷・上腕二頭筋長頭腱損傷・肘内障の診察	全身および患部の診察を適切に進めることができる									
4	肘関節後方脱臼の診察および整復法	全身および患部の診察を適切に進めることができる 整復の手順を適切にできる									
5	コーレス骨折の診察および整復法①	全身および患部の診察を適切に進めることができる 整復の手順を適切にできる									
6	アキレス腱断裂の診察	全身および患部の診察を適切に進めることができる									
7	膝関節靭帯損傷・半月板損傷の診察	全身および患部の診察を適切に進めることができる									
8	肘関節後方脱臼の固定法	適切な固定具で患部を固定することができる 固定後の確認が適切にできる									
9	コーレス骨折の固定法①	適切な固定具で患部を固定することができる 固定後の確認が適切にできる									
10	コーレス骨折の固定法②	適切な固定具で患部を固定することができる 固定後の確認が適切にできる									
11	コーレス骨折の固定法③	適切な固定具で患部を固定することができる 固定後の確認が適切にできる									
12	復習①	これまでの学習の振り返りを行うことで、より確実な知識・技術を習得する。									
13	復習② 確認テスト	これまでの学習の振り返りを行うことで、より確実な知識・技術を習得する。									
14	期末テスト①	テストにより効果測定を行い、習得度を把握し、理解度を深める									
15	期末テスト②	テストにより効果測定を行い、習得度を把握し、理解度を深める									
〔評価について〕 評価は実技試験で行う。 実技試験は確認テスト(20点)と期末テスト(80点)の合計で評価する。評価は学則規定に準ずる。						〔特記事項〕 授業内だけでなく自主練習により技術向上に努めること。 難しい手法があれば授業内で担当教員にアドバイスをもらうこと。					

## 2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	柔道整復師科 午前・午後	学年	2	開講区分	後期	担当教員			菊池知美・中村亮
授業科目名	高齢者・競技者の外傷予防	必修/選択	必修	授業形態	実技	時間数(単位)	30 (2)	授業回数	15
<p>〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</p> <p>スポーツ選手から高齢者まで幅広く治療経験を持つ柔道整復師専科教員が、競技者の代表的なスポーツ種目と特徴的な外傷・障害の治療とその予防及び必要な評価法を教授し、また高齢者に対し機能訓練指導員の役割と外傷予防(転倒予防)の評価法及び運動法を教授する。特に競技者に焦点を合わせて外傷予防の知識と技術を身につける。</p> <p>〔到達目標〕</p> <p>代表的なスポーツ種目と特徴的な外傷・障害を理解し説明ができる。機能訓練指導員の役割を説明できる。外傷予防の評価法及び運動法を修得する。</p> <p>〔使用教材、参考文献等〕 柔道整復師と機能訓練指導 南江堂 運動学 柔道整復学・理論編 南江堂 競技者の外傷予防 医歯薬出版株式会社</p> <p>〔準備学習・時間外学習〕</p>									
回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)							
1	運動生理学の概要	運動生理学の概要について理解する。							
2	競技者の外傷予防	外傷予防について理解する。							
3	復習	復習							
4	復習	復習							
5	確認試験・スポーツマッサージ・ストレッチ	知識の確認を行う。スポーツマッサージ・ストレッチを实践する。							
6	外傷予防のための実践1	基礎的なトレーニングの实践を行う。							
7	外傷予防のための実践2	柔道における外傷予防を实践する。							
8	外傷予防のための実践3	柔道における外傷予防を指導する。							
9	外傷予防のための実践5	水泳における外傷予防を实践する。							
10	外傷予防のための実践6	水泳における外傷予防を指導する。							
11	外傷予防のための実践7	バスケットボールにおける外傷予防を实践する。							
12	外傷予防のための実践8	バスケットボールにおける外傷予防を指導する。							
13	外傷予防のための実践9	サッカーにおける外傷予防を实践する。							
14	外傷予防のための実践10	サッカーにおける外傷予防を指導する。							
15	単位認定試験	テストにより効果測定を行い、習得度を把握し、理解度を深める。							
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は単位認定試験100点で評価する。 評価は学則規定に準ずる。					〔特記事項〕				

# 2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	柔道整復師科 午前・午後	学年	2	開講区分	通年	担当教員 中村亮・大西陽一・小柳伸行			
授業科目名		必修/選択	必修	授業形態	実習	時間数(単位)	135(3)	授業回数	15
臨床実習 I									

〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

付属院や外部臨床実習施設での実践的な学びを通して、医療従事者としての態度や基本的スキル、施術所の役割や保険制度について理解することを目的とする。接骨院開業経験のある柔道整復師専科教員や、臨床実習指導者資格所有者が指導を行う。

〔到達目標〕

施術所、医療機関の役割を理解し、その中で適切な対応をすることができる。  
接骨院業務の基本を理解し、実践能力を習得する。

〔使用教材、参考文献等〕

柔道整復学・理論編 南江堂  
柔道整復学・実技編 南江堂

〔準備学習・時間外学習〕

回	〔授業概要〕	回	〔授業概要〕	回	〔授業概要〕
1	オリエンテーション	16	学外見学型臨床実習	31	学外参加型臨床実習
2	オリエンテーション	17	学外見学型臨床実習	32	学外参加型臨床実習
3	付属院臨床実習	18	学外見学型臨床実習	33	学外参加型臨床実習
4	付属院臨床実習	19	学外見学型臨床実習	34	学外参加型臨床実習
5	付属院臨床実習	20	学外見学型臨床実習	35	学外参加型臨床実習
6	付属院臨床実習	21	学外見学型臨床実習	36	学外参加型臨床実習
7	付属院臨床実習	22	学外見学型臨床実習	37	学外参加型臨床実習
8	付属院臨床実習	23	学外見学型臨床実習	38	学外参加型臨床実習
9	付属院臨床実習	24	学外見学型臨床実習	39	学外参加型臨床実習
10	付属院臨床実習	25	学外見学型臨床実習	40	学外参加型臨床実習
11	付属院臨床実習	26	学外見学型臨床実習	41	学外参加型臨床実習
12	付属院臨床実習	27	学外見学型臨床実習	42	学外参加型臨床実習
13	付属院臨床実習	28	学外見学型臨床実習	43	学外参加型臨床実習
14	付属院臨床実習	29	学外見学型臨床実習	44	学外参加型臨床実習
15	付属院臨床実習	30	学外見学型臨床実習	45	実習報告会

〔評価について〕

実習時の態度、実習内容、提出物、などを総合的に評価する。

〔特記事項〕

# 2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 柔道整復師科 午前・午後		学年	2	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名		必修/選択	必修	授業形態	講義	放送大学			
保健体育Ⅱ						時間数(単位)	60(2)	授業回数	30
<p>〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</p> <p>運動に関わるヒトの機能や運動・スポーツに対する身体の応答や適応について、運動生理学的な基礎知識を習得するとともに、運動・スポーツを計画・実践する基礎を身につけることを目指す。</p>									
<p>〔到達目標〕</p> <p>運動、スポーツをする際に起こる、ヒトの運動生理学の基礎を身に付け、理解すること。</p>									
〔使用教材、参考文献等〕 放送大学テキスト 運動と健康					〔準備学習・時間外学習〕				
回	〔授業概要〕			回	〔授業概要〕				
1	生体と恒常性			16	運動と外的要因				
2	生体と恒常性			17	運動と内的要因				
3	骨格筋の構造と働き			18	運動と内的要因				
4	骨格筋の構造と働き			19	運動と発育・発達				
5	神経系の構造と働き			20	運動と発育・発達				
6	神経系の構造と働き			21	子どもの体力・運動能力				
7	呼吸器系の構造と働き			22	子どもの体力・運動能力				
8	呼吸器系の構造と働き			23	トレーニング概論1				
9	循環器系の構造と働き			24	トレーニング概論1				
10	循環器系の構造と働き			25	トレーニング概論2				
11	運動と栄養			26	トレーニング概論2				
12	運動と栄養			27	生活習慣病と運動				
13	運動とエネルギー代謝			28	生活習慣病と運動				
14	運動とエネルギー代謝			29	運動処方				
15	運動と外的要因			30	運動処方				
〔評価について〕 放送大学による試験にて評価する。 評価規定は学則に準ずる。					〔特記事項〕				

# 2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 柔道整復師科 午前・午後	学年 2	開講区分 前期	担当教員 放送大学
授業科目名  栄養学	必修/選択 必修	授業形態 講義	時間数(単位) 60(2) 授業回数 30
<p>〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</p> <p>化学と生物学に基づき、食品の栄養性ならびに生理機能性を理解する。また、食品の健康維持、ならびに疾病との関連を学習し、病気の予防についての理解を深める。</p>			
<p>〔到達目標〕</p> <p>栄養に関する基本的な知識を身に付け、疾病や病気の予防との関連性を身に付ける。</p>			
〔使用教材、参考文献等〕 放送大学テキスト 食と健康		〔準備学習・時間外学習〕	
回	〔授業概要〕	回	〔授業概要〕
1	食品機能の理解のための科学	16	ビタミン
2	食品機能の理解のための科学	17	ミネラル
3	糖質 食品に含まれる糖質の消化・吸収	18	ミネラル
4	糖質 食品に含まれる糖質の消化・吸収	19	微量非栄養素
5	糖質 食品に含まれる脂質の消化・吸収	20	微量非栄養素
6	糖質 食品に含まれる脂質の消化・吸収	21	生体内酸化
7	糖質 食品に含まれるたんぱく質の消化・吸収	22	生体内酸化
8	糖質 食品に含まれるたんぱく質の消化・吸収	23	食と免疫
9	糖質 生体内の代謝・調節・機能	24	食と免疫
10	糖質 生体内の代謝・調節・機能	25	食・生活習慣病とアレルギー
11	脂質 生体内の代謝・調節・機能	26	食・生活習慣病とアレルギー
12	脂質 生体内の代謝・調節・機能	27	食と生活習慣病
13	蛋白質 生体内の代謝・調節・機能	28	食と生活習慣病
14	蛋白質 生体内の代謝・調節・機能	29	食と高齢社会
15	ビタミン	30	食と高齢社会
〔評価について〕 放送大学による試験にて評価する。 評価規定は学則に準ずる。		〔特記事項〕	

# 2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		柔道整復師科 午前・午後		学年	2	開講区分	前期	担当教員		
授業科目名		論理学		必修/選択	必修	授業形態	講義	放送大学		
				時間数(単位)	60(2)	授業回数	30			
<p>〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</p> <p>思考の形式及び法則を理解し、それに加えて思考のつながりなどを理解する。また「日本語」を通して“知る・読む・考える”ことを習熟し、その知識を活用できる能力を身につけることを目的とする。</p>										
<p>〔到達目標〕</p> <p>基本的な文章読解力と論理的思考力を身に付ける。</p>										
〔使用教材、参考文献等〕					〔準備学習・時間外学習〕					
放送大学テキスト 日本語リテラシー										
回	〔授業概要〕				回	〔授業概要〕				
1	日本語を書こう				16	書くスキル① 説明文を書く				
2	日本語を書こう				17	書くスキル② 文体と論理				
3	日本語との付き合い方① 文字と表記				18	書くスキル② 文体と論理				
4	日本語との付き合い方① 文字と表記				19	考えるスキル② 言えることと言えないこと				
5	日本語との付き合い方② 和語と漢語と外来語				20	考えるスキル② 言えることと言えないこと				
6	日本語との付き合い方② 和語と漢語と外来語				21	考えるスキル③ 考えを導く方法				
7	読むスキル① まとまりを読む				22	考えるスキル③ 考えを導く方法				
8	読むスキル① まとまりを読む				23	レポートを書く① 論理の整理まで				
9	読むスキル① つながりを読む				24	レポートを書く① 論理の整理まで				
10	読むスキル① つながりを読む				25	レポートを書く② 論理の調べる・考察する				
11	考えるスキル① 論理トレーニング				26	レポートを書く② 論理の調べる・考察する				
12	考えるスキル① 論理トレーニング				27	実践のスキル 自己添削の方法				
13	日本語との付き合い方③ 「は」と「が」の語り				28	実践のスキル 自己添削の方法				
14	日本語との付き合い方③ 「は」と「が」の語り				29	これからも日本語を書こう				
15	書くスキル① 説明文を書く				30	これからも日本語を書こう				
〔評価について〕					〔特記事項〕					
放送大学による試験にて評価する。評価規定は学則に準ずる。										

# 2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 柔道整復師科 午前・午後 授業科目名 <p style="text-align: center; margin-top: 10px;">解剖学Ⅱ</p>	学年 2	開講区分 後期	担当教員 河田 晋一	時間数 (単位) 60 (4)	授業回数 15
[授業の学習内容と心構え] (実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 医科大学、人体構造学分野で教鞭をとり、死体解剖資格を有する教員が、人体を構成する諸器官や組織の正常な形態・構成・機能などの基礎知識を教授する。					
[到達目標] 人体の構造の基本である解剖学を学ぶことで、柔道整復師となるのに必要な知識を習得する。 血管系や内臓器、神経系などの位置や内景を学び、その構造と機能を理解する。					
[使用教材、参考文献等] 解剖学			[準備学習・時間外学習] 事前に教科書を読み、わからない用語等は調べておくことが望ましい。各部の名称や構造を理解するために、授業後も繰り返し復習することが望ましい。		
回	[授業概要]		到達目標(できるようになること)		
1	女性生殖器 卵巣、卵管、子宮、膣		女性生殖器の各臓器の位置、形態、機能を理解する。		
2	内分泌① 内分泌器の働き、下垂体、甲状腺、上皮小体		内分泌系の構成臓器の位置を理解する。		
3	内分泌② 副腎、膵臓、精巣、卵巣		内分泌系臓器の構造と機能を理解する。		
4	脳の区分		中枢神経の外観と区分について理解する。		
5	大脳 大脳皮質、大脳白質、大脳基底核		大脳の外形と機能局在について理解する。		
6	中脳・橋・延髄 脳神経核、網様体、伝導路の中継核		脳幹の部位と区分、内部構造について理解する。		
7	脊髄 ベル・マジャンディーの法則		脊髄の構造および脊髄神経の構造と機能を理解する。		
8	復習		復習を行い、知識を定着させる		
9	伝導路① 反射路、上行性伝導路		末梢からの感覚を伝える伝導路の名称と構造を理解する。		
10	伝導路② 下行性伝導路		末梢からの感覚を伝える伝導路の名称と構造を理解する。		
11	脳神経①		脳から出る脳神経の位置や構造について理解する。		
12	脳神経②		各脳神経の機能について理解する。		
13	自律神経 交感神経系、副交感神経系		交感神経および副交感神経の構造と機能について理解する。		
14	感覚器 外皮、視覚器、聴覚器、平衡器、味覚器、嗅覚器		各感覚器の受容器と伝導路を含めた構造を理解する。		
15	期末試験 解説		テストにより効果測定を行い、習熟度を把握し、理解度を深める。		
[評価について] 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は単位認定試験100点で評価する。 評価は学則規定に準ずる。			[特記事項]		

# 2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 柔道整復師科 午前・午後 授業科目名 <p style="text-align: center; margin-top: 10px;">生物学</p>	学年	2	開講 区分	後期	担当教員 澁川 義幸			
	必修/ 選択	必修	授業 形態	講義	時間数 (単位)	30 (2)	授業 回数	15
[授業の学習内容と心構え] (実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)  生体恒常性の維持に関わる自律機能を理解する。恒常性の極度障害は死を招き、軽度の障害は病気となる。生物学の学習によって医学を理解し、その知識を習得する。								
[到達目標] 体温・内分泌・排泄・生殖機能の恒常性と自律機能を理解する。これらの機能の神経性・代謝性機能統合による常態について理解し、その知識を習得する。								
[使用教材、参考文献等] 生理学(南江堂)					[準備学習・時間外学習]			
回	[授業概要]			到達目標(できるようになること)				
1	内分泌			カルシウム代謝調節ホルモンを説明できる				
2	内分泌			カルシウム代謝調節ホルモンを説明できる				
3	神経機能			神経系の分類				
4	神経機能			細胞膜機能				
5	神経機能			細胞膜輸送タンパク質				
6	神経機能			細胞膜輸送タンパク質				
7	神経機能			活動電位生成				
8	神経機能			活動電位の伝導				
9	神経機能			軸索の分類				
10	神経機能			末梢体性神経機能				
11	神経機能			末梢体性神経機能				
12	神経機能			末梢自律神経機能				
13	神経機能			末梢自律神経機能				
14	神経機能			末梢自律神経機能				
15	期末テスト 解説			期末テストによる総括評価				
[評価について] 中間試験(50点)と期末試験(50点)の合計100点満点で評価する					[特記事項] 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。			

## 2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		柔道整復師科 午前・午後		学年	2	開講区分	後期	担当教員			安井 素平	
授業科目名				必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15	
臨床柔道整復学 I												
<p>〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</p> <p>柔道整復師の資格を持ち、接骨院の臨床現場で、怪我や負傷した選手の施術・治療・予防指導に尽力してきた柔道整復師専科教員が、柔道整復術の骨折・脱臼・軟部組織損傷の知識および治療法を、人体構造の基礎である筋骨格系をベースに授業を行なう。作図と3D映像を交え、立体的に把握できるような空間認識能力を培い、実際の人体内部を理解できる授業とする。臨床での経験を活かし、実際の治療法に関する内容まで到達することを目標とする。</p>												
<p>〔到達目標〕</p> <p>手関節から手指の骨折・脱臼・軟部組織損傷の基本的知識を説明できるようになる。</p>												
〔使用教材、参考文献等〕						〔準備学習・時間外学習〕						
柔道整復学 理論編 改訂第6版(南江堂)												
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)						
1	手関節部の軟部組織損傷1					三角線維軟骨複合体損傷、ド・ケルバン病について理解する。						
2	手関節部の軟部組織損傷2					末梢神経障害、キーンバック、マーデルング変形について理解する。						
3	手・指部の機能解剖					機能解剖について理解する。						
4	中手骨部の骨折1					骨頭部、頸部、骨幹部の骨折について理解する。						
5	中手骨部の骨折2					第1、第5中手骨基部骨折について理解する。						
6	手根中手関節脱臼					手根中手関節脱臼について理解する。						
7	指骨の骨折1					基節骨骨折、中節骨骨折について理解する。						
8	指骨の骨折2					末節骨骨折、マレットフィンガーについて理解する。						
9	指骨の脱臼1					指骨の脱臼について理解する。						
10	指骨の脱臼2					指骨のそれ以外の損傷について理解する。						
11	手部、指部の軟部組織損傷1					靭帯損傷について理解する。						
12	手部、指部の軟部組織損傷2					靭帯損傷について理解する。						
13	手部、指部の軟部組織損傷3					ロッキングフィンガー、ばね指について理解する。						
14	手部、指部の軟部組織損傷4					変性疾患、変形について理解する。						
15	期末テスト 解説					テストにより効果測定を行い、習得度を把握し、理解度を深める。						
〔評価について〕						〔特記事項〕						
評価は筆記試験で行う。 筆記試験は単位認定試験100点で評価する。 評価は学則規定に準ずる。												

# 2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 柔道整復師科 午前・午後	学年 2	開講区分 後期	担当教員 菊池知美・中村亮		
授業科目名 臨床柔道整復学Ⅱ	必修/選択 必修	授業形態 講義	時間数(単位) 30(2)	授業回数 15	

〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

接骨院にて怪我や負傷した選手の施術・治療・予防指導に尽力してきた柔道整復師専科教員が、柔道整復師として必要な軟部組織損傷についての知識を教授する。  
解剖学的な構造を理解したうえで発生機序を理解する。ただ単に症状や治療法を暗記するのではなく、なぜそのような症状がでるのか、なぜそのように治療するのかを解剖学や運動学といった学問を基に論理的に考えさせ、臨床の現場でも対応できるような知識の習得を目指した授業とする。

〔到達目標〕

下腿から足趾の骨折・脱臼の基本的知識を説明できるようになる。

〔使用教材、参考文献等〕

柔道整復学 理論編 改訂第7版(南江堂)

〔準備学習・時間外学習〕

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	下腿部の機能解剖	下腿部の機能解剖について理解する。
2	下腿骨幹部骨折1	下腿骨幹部骨折の発生機序・症状について理解する。
3	下腿骨幹部骨折2	下腿骨幹部骨折の転位、後遺症について理解する。
4	足関節の機能解剖	機能解剖について理解する。
5	下腿遠位部の骨折1	下腿遠位部の骨折について理解する。
6	下腿遠位部の骨折2	下腿遠位部の脱臼について理解する。
7	足根骨骨折1	距骨骨折について理解する。
8	足根骨骨折2	踵骨折について理解する。
9	足関節部の脱臼	足関節部の脱臼について理解する。
10	足趾部の機能解剖、足根骨骨折	機能解剖と足根骨骨折について理解する。
11	中足骨骨折、趾骨骨折	中足骨、趾骨骨折について理解する。
12	足根部の脱臼と軟部組織損傷	ショパール関節損傷、リスフラン関節損傷、扁平足について理解する。
13	足・趾部の脱臼1	足・趾部の脱臼について理解する。
14	足・趾部の脱臼2	足・趾部の脱臼について理解する。
15	期末テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得度を把握し、理解度を深める。

〔評価について〕

評価は筆記試験で行う。  
筆記試験は単位認定試験100点で評価する。  
評価は学則規定に準ずる。

〔特記事項〕

# 2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 柔道整復師科 午前・午後	学年	2	開講区分	後期	担当教員 菊池知美・中村亮			
授業科目名  臨床柔道整復学Ⅲ	必修/ 選択	必修	授業形態	講義	時間数 (単位)	30 (2)	授業回数	15

[授業の学習内容と心構え] (実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)  
 臨床経験を持つ柔道整復師専科教員が、柔道整復師として必要な足部の骨折から下肢の脱臼についての知識を教授する。解剖学的な構造を理解したうえで発生機序を理解する。ただ単に症状や治療法を暗記するのではなく、なぜそのような症状がでるのか、なぜそのように治療するのかを解剖学や運動学といった学問を基に論理的に考えさせ、臨床の現場でも対応できるような知識の習得を目指した授業とする。

[到達目標]  
 下肢の軟部組織損傷の基本的知識を説明できるようになる。また、それに応じたテーピングをできるようにする。

[使用教材、参考文献等] 柔道整復学 理論編 改訂第6版(南江堂)	[準備学習・時間外学習]
--------------------------------------	--------------

回	[授業概要]	到達目標(できるようになること)
1	大腿部の軟部組織損傷1	打撲について理解する。
2	大腿部の軟部組織損傷2	肉離れについて理解する。
3	テーピング(大腿部)	打撲・肉離れのテーピングを行う。
4	下腿軟部組織損傷1	アキレス腱炎、下腿肉離れについて理解する。
5	下腿軟部組織損傷2	下腿部のスポーツ障害について理解する。
6	下腿軟部組織損傷3	注意すべき疾患について理解する。
7	テーピング(下腿部)	下腿部のテーピングを行う。
8	足関節部の軟部組織損傷1	足関節捻挫について理解する。
9	足関節部の軟部組織損傷2	鑑別診断について理解する。
10	テーピング(足関節1)	足関節のテーピングを行う。
11	テーピング(足関節2)	足関節の応用テーピングを行う。
12	足・趾部の軟部組織損傷1	有痛性疾患について理解する。
13	足・趾部の軟部組織損傷2	前足部の有痛性疾患について理解する。
14	テーピング(足・趾部)	足・趾部のテーピングを行う。
15	期末テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得度を把握し、理解度を深める。

[評価について] 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は単位認定試験100点で評価する。 評価は学則規定に準ずる。	[特記事項]
--	--------

# 2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	柔道整復師科 午前・午後	学年	2	開講区分	後期	担当教員 菊池知美・中村亮			
授業科目名	高齢者・競技者の外傷予防	必修/選択	必修	授業形態	実技	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15

〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

スポーツ選手から高齢者まで幅広く治療経験を持つ柔道整復師専科教員が、競技者の代表的なスポーツ種目と特徴的な外傷・障害の治療とその予防及び必要な評価法を教授し、また高齢者に対し機能訓練指導員の役割と外傷予防(転倒予防)の評価法及び運動法を教授する。特に高齢者に焦点を合わせて外傷予防の知識と技術を身につける。

〔到達目標〕

代表的なスポーツ種目と特徴的な外傷・障害を理解し説明ができる。機能訓練指導員の役割を説明できる。外傷予防の評価法及び運動法を修得する。

〔使用教材、参考文献等〕

柔道整復師と機能訓練指導 南江堂  
運動学 柔道整復学・理論編 南江堂  
競技者の外傷予防 医歯薬出版株式会社

〔準備学習・時間外学習〕

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	認知症の理解・認知症のある利用者の支援(P119)	認知症について理解する。
2	ロコモティブシンドローム	ロコモティブシンドロームについて理解する。
3	機能訓練指導員と機能訓練	機能訓練指導員の概要について理解する。
4	確認試験	知識の確認を行う
5	機能訓練で提供する運動と要点1	手順について理解する。
6	機能訓練で提供する運動と要点2	器具を用いない体操について理解する。
7	機能訓練で提供する運動と要点3	器具を用いないトレーニングについて理解する。
8	機能訓練で提供する運動と要点4	器具を用いない体操とトレーニングを実践する。
9	機能訓練で提供する運動と要点5	簡単な器具を用いて行う運動について理解する。
10	機能訓練で提供する運動と要点6	簡単な器具を用いて行う運動について実践する。
11	機能訓練で提供する運動と要点7	高齢者の運動時のリスク管理について理解する。
12	機能訓練で提供する運動と要点8	股関節の運動能力を高める運動と各部位の運動について理解する。
13	機能訓練で提供する運動と要点9	股関節の運動能力を高める運動と各部位の運動について実践する。
14	機能訓練で提供する運動と要点10	個別の運動メニューを作成し、指導をする。
15	単位認定試験	テストにより効果測定を行い、習得度を把握し、理解度を深める。

〔評価について〕

評価は筆記試験で行う。  
筆記試験は単位認定試験100点で評価する。  
評価は学則規定に準ずる。

〔特記事項〕

# 2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	柔道整復師科 午前・午後	学年	2	開講区分	後期	担当教員 安井素平・坪松真央			
授業科目名	高齢者・競技者の外傷予防	必修/選択	必修	授業形態	実技	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15

[授業の学習内容と心構え] (実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

スポーツ選手から高齢者まで幅広く治療経験を持つ柔道整復師専科教員が、競技者の代表的なスポーツ種目と特徴的な外傷・障害の治療とその予防及び必要な評価法を教授し、また高齢者に対し機能訓練指導員の役割と外傷予防(転倒予防)の評価法及び運動法を教授する。特に競技者に焦点を合わせて外傷予防の知識と技術を身につける。

[到達目標]

代表的なスポーツ種目と特徴的な外傷・障害を理解し説明ができる。機能訓練指導員の役割を説明できる。外傷予防の評価法及び運動法を修得する。

[使用教材、参考文献等]

柔道整復師と機能訓練指導 南江堂  
運動学 柔道整復学・理論編 南江堂  
競技者の外傷予防 医歯薬出版株式会社

[準備学習・時間外学習]

回	[授業概要]	到達目標(できるようになること)
1	運動生理学の概要	運動生理学の概要について理解する。
2	競技者の外傷予防	外傷予防について理解する。
3	復習	復習
4	復習	復習
5	確認試験・スポーツマッサージ・ストレッチ	知識の確認を行う。スポーツマッサージ・ストレッチを実践する。
6	外傷予防のための実践1	基礎的なトレーニングの実践を行う。
7	外傷予防のための実践2	柔道における外傷予防を実践する。
8	外傷予防のための実践3	柔道における外傷予防を指導する。
9	外傷予防のための実践5	水泳における外傷予防を実践する。
10	外傷予防のための実践6	水泳における外傷予防を指導する。
11	外傷予防のための実践7	バスケットボールにおける外傷予防を実践する。
12	外傷予防のための実践8	バスケットボールにおける外傷予防を指導する。
13	外傷予防のための実践9	サッカーにおける外傷予防を実践する。
14	外傷予防のための実践10	サッカーにおける外傷予防を指導する。
15	単位認定試験	テストにより効果測定を行い、習得度を把握し、理解度を深める。

[評価について]

評価は筆記試験で行う。  
筆記試験は単位認定試験100点で評価する。  
評価は学則規定に準ずる。

[特記事項]

## 2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 柔道整復師科 午前・午後 授業科目名 <p style="text-align: center; margin-top: 10px;">運動学</p>	学年	2	開講区分	後期	担当教員 清水 幹弥			
	必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数 (単位)	30 (2)	授業回数	15
[授業の学習内容と心構え](実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 後期は、具体的な運動(立つ、歩く、走る)について、今までに観察された知見を理解してもらいます。								
[到達目標] 上肢・下肢の運動の詳細を理解する。 立位姿勢と歩行、および運動の発達・学習を理解する。 国家試験の高頻出の箇所を理解する。								
[使用教材、参考文献等] ・教科書は運動学(医歯薬出版改訂第3版第10刷) ・学習には次の文具を用いることがある 色ペン、三角定規、コンパス、分度器、√付き電卓、等				[準備学習・時間外学習] 勉強の方法は、『予習→受講→復習』以外にありません。 授業前に教科書を読み、授業後にもう一度読むこと。				
回	[授業概要]			到達目標(できるようになること)				
1	・上肢の運動の詳細-1			回旋筋腱板、肩甲骨腕リズム、習慣的機能の転倒、共同筋作用などを学びます				
2	・上肢の運動の詳細-2			回旋筋腱板、肩甲骨腕リズム、習慣的機能の転倒、共同筋作用などを学びます				
3	・下肢の運動の詳細			転がり運動、滑り運動、膝関節伸展機能、アーチなどを学びます				
4	・体幹・脊柱の運動の詳細			脊柱の運動、頸部の運動、胸郭の運動、腰椎の運動を学びます				
5	・姿勢・重心・立位姿勢			人体の重心を求める。立位姿勢の重心線、安定性を学びます				
6	・立位姿勢の制御、機能肢位、歩行			抗重力筋、立位保持の神経機構を学びます。				
7	・復習			第1回から第6回までの内容を復習します。				
8	・確認試験(70分) ※試験当日に同一試験を行うので、解説は後日行う			第1回から第6回までの内容を試験します。				
9	・歩行の運動学的分析			歩行における歩行周期、重心移動、関節運動を学びます				
10	・歩行の運動学的分析			歩行における筋活動、床反力、足底圧、並びに走行を学びます				
11	・異常歩行、運動発達			異常歩行の呼称を知る。乳幼児期の運動発達を学びます。				
12	・運動学習			運動習慣と行動の遂行の関係を学びます				
13	・運動・動作・行為のお視点を理解する			身体運動の全体を俯瞰します				
14	・復習			第1回から第6回までの主な内容と、第9回から第13回までの詳細を復習します。				
15	・期末試験(70分) ※試験当日に同一試験を行うので、解説は後日行う。			第1回から第6回までの主な内容と第9回から第13回までの詳細を試験します。				
[評価について] 試験は筆記試験で行います。 評価は、確認試験(40%)と期末試験(60%)の合計100%で行います。				[特記事項] ・授業では、学問として大切である箇所と、国家試験に高頻出である箇所を指摘します。 ・過去の国家試験の問題は、全て教科書から出題されています。したがって教科書に沿って学ぶことが大切です。				

# 2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	柔道整復師科 午前・午後	学年	2	開講区分	後期	担当教員			
授業科目名	病理学概論	必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15

〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

歯科医師免許取得後、胸腺細胞、口腔細菌などの研究を行う。また臨床、産業保健活動にも従事し、産業保健分野の書籍では、職業性疾病に関する章の分担執筆を担当した。教育分野では、医療系大学・専門学校での講師経験も有する。講義では病理学の基本的な内容に加え、最新の知見も交えて、解説して行く予定である。□

〔到達目標〕

柔道整復師の業務を行う上で必要な病理学の基礎知識を習得する。

〔使用教材、参考文献等〕

関根一郎著 病理学概論 改訂第3版 医歯薬出版

〔準備学習・時間外学習〕

普段より、ニュース、健康番組などで身近に病気に興味を持って下さい。また、授業後は講義の際、課題とした部分を復習して下さい。□

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	炎症1	炎症の定義について理解する。炎症の臨床的五大徴候を説明できる。炎症の原因について理解する。
2	炎症2	炎症の形態学的変化、炎症の経過による分類について理解する。
3	炎症3	炎症の形態による分類(滲出性炎、増殖性炎、特異性炎)について理解する。
4	炎症4、免疫1	特異性炎の詳細、免疫の概念について理解する。
5	免疫2	免疫に関する用語、免疫担当細胞について理解する。
6	免疫3	免疫不全、自己免疫疾患について理解する。
7	免疫4、腫瘍1	アレルギーの概念・分類、死因別疾患順位について理解する。
8	学習習熟度判定試験	試験を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。
9	腫瘍2	腫瘍の定義、分類、形態、発育、腫瘍細胞の形態、腫瘍マーカー、がん抑制遺伝子などについて理解する。
10	腫瘍3	腫瘍の発生機構、前癌病変、転移、生体への影響について理解する。
11	腫瘍4	癌の外因・内因について理解する。腫瘍の診断・治療について説明できる。
12	腫瘍5	腫瘍の分類、主な良性腫瘍、悪性腫瘍、主要臓器のがんについて理解する。
13	染色体・遺伝子および発生の異常1	遺伝子・染色体、単因子性遺伝(遺伝子病)・多因子性遺伝の疾患、染色体異常について理解する。
14	染色体・遺伝子および発生の異常2	奇形の原因、奇形成立の時期、奇形の種類について理解する。
15	期末テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。

〔評価について〕

評価は筆記試験で行う。  
筆記試験は単位認定試験100点で評価する。  
評価は学則規定に準ずる。

〔特記事項〕

毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。  
必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。

## 2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		柔道整復師科 午前・午後		学年	2	開講区分	後期	担当教員			佐々木 皓平	
授業科目名		一般臨床医学		必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15	
<p>〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</p> <p>柔道整復師にとって必要な内科を中心とした疾患について、病態生理から理解するよう授業を行う。</p>												
<p>〔到達目標〕</p> <p>総論、各論共に理解、定着を目標とする。</p>												
〔使用教材、参考文献等〕						〔準備学習・時間外学習〕						
一般臨床医学(改訂第3版)を基にした配布資料						授業後の復習が望ましい。						
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)						
1	生命徴候・感覚検査					生命徴候・感覚検査について説明できる						
2	生命徴候・感覚検査					生命徴候・感覚検査について説明できる						
3	反射検査					反射検査について説明・実施できる						
4	病的反射/検査法					病的反射について説明・実施できる						
5	検査法・呼吸器疾患					検査法・呼吸器疾患について説明できる						
6	呼吸器疾患					呼吸器疾患について説明できる						
7	消化器疾患					消化器疾患について説明できる						
8	循環器疾患					循環器疾患について説明できる						
9	中間試験					試験において定着度を確認する						
10	代謝疾患、内分泌疾患					代謝疾患、内分泌疾患について説明できる						
11	血液・造血器疾患					血液・造血器疾患について説明できる						
12	腎・尿路疾患					腎・尿路疾患について説明できる						
13	神経疾患					神経疾患について説明できる						
14	リウマチ・膠原病・アレルギー					リウマチ・膠原病・アレルギーについて説明できる						
15	期末試験					試験において定着度を確認する						
〔評価について〕						〔特記事項〕						
試験は中間テスト(40点)と期末テスト(60点)の合計100点で評価する。また、 <b>授業参加態度も考慮する</b> 。評価は学則規定に準ずる。						毎授業において重要事項については穴埋めを行うこと。						

## 2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 柔道整復師科 午前・午後		学年	2	開講区分	後期	担当教員			高柳 和貴
授業科目名		必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
<p>〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)          長年各学校で教員を務めた経験がある、鍼灸師と盲学校特殊教科教諭1種免許を有した教員が講義形式で授業を行う</p>									
<p>〔到達目標〕          柔道整復師に必要な診察法の概論および各論部分を学び、代表的な臨床症状を理解する。各種検査法について概要を知り、検査の基準値について理解をする。主要な疾患について学び理解する。</p>									
〔使用教材、参考文献等〕 外科学概論					〔準備学習・時間外学習〕 専門用語が多い科目のため予め教科書を読み予習しておくこと。また、授業後は復習をし用語の意味を理解することが望ましい。				
回	〔授業概要〕			到達目標(できるようになること)					
1	出血と止血			出血と止血について理解する。					
2	心肺蘇生法			蘇生法の概略を理解し、BLSの手順が説明できる。					
3	脳神経外科疾患1			頭蓋内の主要な病態の概略を理解する。 脳腫瘍、脳血管障害の概略と主な病態を説明できる。					
4	脳神経外科疾患2			頭蓋内の主要な病態の概略を理解する。 脳腫瘍、脳血管障害の概略と主な病態を説明できる。					
5	脳神経外科疾患3			頭蓋内の主要な病態の概略を理解する。 脳腫瘍、脳血管障害の概略と主な病態を説明できる。					
6	甲状腺・頸部疾患			甲状腺疾患の診察、診断法を理解する。 主な甲状腺疾患を挙げ概要が説明できる。					
7	胸壁・呼吸器疾患			胸部疾患の主要な症候を知り主要な疾患との関連を理解する。 胸部疾患の主要な検査、手術法の概略を説明できる。					
8	復習			復習を行い、知識を定着させる					
9	乳腺疾患			乳腺疾患の概略を理解し、診察、診断法の概略が説明できる。 乳房腫瘍の概要が説明できる。					
10	心臓・脈管疾患(1)			心・血管系疾患の検査法を知る。心臓疾患での主な手術法の概略を説明できる。					
11	心臓・脈管疾患(2)			主な心臓疾患を挙げ概要を説明できる。					
12	腹部外科疾患(1)			腹部外科疾患の主な症状を挙げ疾患との関連が説明できる。					
13	腹部外科疾患(2)			腹部疾患に対する主な検査の概略が説明できる。					
14	腹部外科疾患(3)			腹部で行われる主要な手術の概略が説明できる。					
15	期末テスト 解説			テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は単位認定試験100点で評価する。 評価は学則規定に準ずる。					〔特記事項〕 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。 必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。				

# 2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		柔道整復師科 午前・午後		学年	2	開講区分	後期	担当教員			高柳 和貴	
授業科目名				必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15	
<p>〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</p> <p>長年各学校で教員を務めた経験がある、鍼灸師と盲学校特殊教科教諭1種免許を有した教員が講義形式で授業を行う。リハビリテーション医学の総論部分及び、リハビリテーションの基礎医学、評価と診断を教授する。</p>												
<p>〔到達目標〕</p> <p>リハビリテーション医学の総論部分を学ぶ。リハビリテーションの基礎医学、評価と診断を理解する。リハビリテーション医学の各種療法について学習し、理解する。</p>												
〔使用教材、参考文献等〕						〔準備学習・時間外学習〕						
リハビリテーション医学(改訂第4版)						専門用語が多い科目のため予め教科書を読み予習しておくこと。また、授業後は復習をし用語の意味を理解することが望ましい。						
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)						
1	リハビリテーションの治療(言語治療)					言語障害の分類を示し概要が説明できる。言語療法の概要が説明できる。						
2	リハビリテーション医学と関連職種					リハビリテーション医の役割の概要が説明できる。医療職種の資格・役割の概要が説明できる。						
3	リハビリテーションの実際(脳卒中)					脳卒中の分類と特徴の概要が説明できる。脳卒中にみられる障害を挙げ概要が説明できる。						
4	リハビリテーションの実際(脊髄損傷)					脊髄損傷の病態・損傷部位と機能予後の関係を概略的に説明できる。脊髄損傷リハビリテーションを回復期別に概要が説明できる。						
5	リハビリテーションの実際(小児疾患)					脳性麻痺の特徴と診断について概略が説明できる。二分脊椎、筋ジストロフィーとそのリハビリテーションの概要が説明できる。						
6	リハビリテーションの実際(切断)					切断の原因・切断部位の名称を挙げ説明できる。切断のリハビリテーションの概要が示せる。						
7	リハビリテーションの実際(末梢神経損傷)					末梢神経損傷の分類・重症度分類の概要が説明できる。末梢神経損傷のリハビリテーション概要が示せる。						
8	復習					復習を行い、知識を定着させる。						
9	リハビリテーションの実際(関節リウマチ)					関節リウマチの概略が説明できる。関節リウマチのリハビリテーションの概要が示せる。						
10	リハビリテーションの実際(整形外科疾患)					腰痛の原因疾患を挙げ、腰痛の発生機序を説明できる。腰痛腰痛のリハビリテーションの概要が示せる。						
11	リハビリテーションの実際(心疾患)					心疾患とリハビリテーションの概要が説明できる。						
12	リハビリテーションの実際(呼吸器疾患)					呼吸器疾患とリハビリテーションの概要が説明できる。						
13	リハビリテーションの実際(老人のリハビリテーション)					老人のリハビリテーションの特殊性が説明できる。						
14	リハビリテーションと福祉					リハビリテーション関連法規の概要が説明できる。						
15	期末テスト					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。						
〔評価について〕						〔特記事項〕						
評価は筆記試験で行う。筆記試験は単位認定試験100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。						毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。						

# 2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	柔道整復師科 午前・午後	学年	2	開講区分	後期	担当教員			
授業科目名		必修/選択	必修	授業形態	実技	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
	柔道整復実技Ⅲ								

〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

臨床経験を持つ柔道整復師専科教員が、各代表的な骨折・脱臼・軟部組織損傷の基礎知識と整復・固定の技術を指導する。骨折・脱臼の整復・固定は柔道整復師として絶対的に必要な技術であり、他業種に負けない独自の技術である。そのため、自主練習に励み、1年間のうちにその基礎を培って欲しい。

〔到達目標〕

柔道整復師として必要な上肢の骨折・脱臼に対する整復法と固定法を習得することを目標とする。  
3年次に行われる認定実技審査の内容を細かく学び、技術の習得をする。

〔使用教材、参考文献等〕

柔道整復学 実技編  
柔道整復学 理論編  
包帯固定学

〔準備学習・時間外学習〕

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	下腿骨骨幹部骨折の固定法①	適切な固定具で患部を固定することができる 固定後の確認が適切にできる
2	下腿骨骨幹部骨折の固定法②	適切な固定具で患部を固定することができる 固定後の確認が適切にできる
3	下腿骨骨幹部骨折の固定法③	適切な固定具で患部を固定することができる 固定後の確認が適切にできる
4	アキレス腱断裂の固定法	適切な固定具で患部を固定することができる 固定後の確認が適切にできる
5	第5中手骨頸部骨折の固定法①	適切な固定具で患部を固定することができる 固定後の確認が適切にできる
6	第5中手骨頸部骨折の固定法②	適切な固定具で患部を固定することができる 固定後の確認が適切にできる
7	手第2指PIP関節背側脱臼の固定法①	適切な固定具で患部を固定することができる 固定後の確認が適切にできる
8	手第2指PIP関節背側脱臼の固定法②	適切な固定具で患部を固定することができる 固定後の確認が適切にできる
9	足関節外側靭帯損傷の固定法①	適切な固定具で患部を固定することができる 固定後の確認が適切にできる
10	足関節外側靭帯損傷の固定法②	適切な固定具で患部を固定することができる 固定後の確認が適切にできる
11	足関節外側靭帯損傷の固定法③	適切な固定具で患部を固定することができる 固定後の確認が適切にできる
12	復習①	これまでの学習の振り返りを行うことで、より確実な知識・技術を習得する。
13	復習②	これまでの学習の振り返りを行うことで、より確実な知識・技術を習得する。
14	期末テスト①	テストにより効果測定を行い、習得度を把握し、理解度を深める
15	期末テスト②	テストにより効果測定を行い、習得度を把握し、理解度を深める

〔評価について〕

評価は実技試験で行う。  
実技試験は確認テスト(20点)と期末テスト(80点)の合計で評価する。評価は学則規定に準ずる。

〔特記事項〕

授業内だけでなく自主練習により技術向上に努めること。  
難しい手法があれば授業内で担当教員にアドバイスをもらうこと。